

2023年11月13日

第2回「自然災害伝承碑」(周防大島町) 探訪

日本技術士会中国本部 山口県支部防災委員会

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、日本技術士会 中国本部 山口県支部防災委員会では、防災委員会の活動として、「なぜ、そこに自然災害伝承碑があるのか」をテーマに、各地の伝承碑を訪れる機会を創り、過去に起こった自然災害を知ること、地域の地形の特徴、土地利用の変化などの知見を深め、防災意識の高揚、地域防災力の向上に寄与するため、「自然災害伝承碑」を探訪するイベントを下記のとおり開催します。今回は、第1回佐波川流域(山口市、防府市)に引き続き、周防大島町を探訪します。

つきましては、技術士の皆様方にご参加頂きますよう、お願い申し上げます。

なお、第1回探訪では、2か所の未登録伝承碑を確認したので、令和5年10月4日に、関係市担当課へ、情報として資料を提出いたしました。

記

- 1、日時：令和5年12月16日(土) 9:00~18:00
- 2、自然災害伝承碑地域：周防大島町
- 3、集合時間・場所：8時50分 (株)ケイズラブ駐車場(山口市下小鯖3533番地4)
- 4、探訪方法：参加者の中から、同乗可能な乗用車を決めさせていただき、各自同乗し、伝承碑を探訪する。(申込フォームに、乗用車利用可否を問う欄を設けています。)
- 5、参加申込については、下記URLの申込フォームよりお申し込みください。
<https://forms.gle/LQDVNYmq6bf6j2TR8>
- 6、現地集合の方につきましては、後日、集合場所の駐車場所などお知らせします。
- 7、「自然災害伝承碑」探訪内容および主なスケジュール

- (1) 8:50 (株)ケイズラブ駐車場集合
- (2) 8:50~9:00 概要説明
- (3) 9:00~10:50 車移動
- (4) 10:50~11:30 屋代村郷の坪土石流災害記念碑 屋代ダム
- (5) 12:00~12:40 山口県大島防災センター(久賀)
- (6) 12:50~13:40 昼食(パワービーチ)(瀬戸内海を見ながら食事)
- (7) 14:20~15:00 周防大島町外入郷(安政南海地震:津波) 往還古道
- (8) 15:00~15:30 地家室 佐連 片添ヶ浜公園(海を見ながら移動)
- (9) 15:30~16:00 道の駅 サザンセットとうわ
- (10) 18:00 (株)ケイズラブ駐車場着(解散)

8、その他留意事項

- (1) スケジュールの時間は大まかな目安の時間となります。実際には、これらの時間を前後することも想定されます。予めご了承ください。
- (2) 昼食代は各自でご負担ください。
- (3) 乗用車を提供される方には、2,000円お支払いいたします。高速料金は立て替えて精算してください。後日、精算しますので、領収書が必要です。ETCで高速に入り、出る時に領収書を受け取ってください。乗用車を提供される方は、乗用車の保険に関して確認を行います。予めご了承ください。
- (4) 今回のイベントではCPD証明書等は発行されませんが、参加された方は「6-5 自己学習他」0.5/H×2H=1.0CPD時間をご登録下さい。

【参考】

自然災害伝承碑（しぜんさいがいでんしょうひ）は、地震、津波、洪水、噴火といった大規模な自然災害の状況や教訓を後世に伝え残すために作られた災害碑、慰霊碑、記念碑等の碑やモニュメントである。

国土地理院では、2019年3月に自然災害伝承碑の地図記号を制定して、ウェブ版の

「地理院地図」や紙版の2万5千分1地形図への掲載を進めており、地理院地図には2022年6月23日時点で、47都道府県415市区町村1402基の自然災害伝承碑が公開されている。調査・登録が遅れていたり、地元でもあまり知られていなかったりする伝承碑も多く、日本全国の実数は2000~3000と推測されている(出典:フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)。

国土地理院の最新のデータによると山口県内では29か所（下関市：1か所宇部市：2か所、山口市：7か所、萩市：4か所、防府市：7か所、岩国市：3か所、山陽小野田市：1か所、周防大島町：2か所、阿武町：2か所）が登録されています。



「自然災害伝承碑」掲載市区町村一覧

※市区町村名をクリックすると、地理院地図が開きます。 2023年10月26日 現在

市町村名	伝承碑数	追加数	伝承されている災害	写真の二次利用について (空欄は国土地理院コンテンツ利用規約)	掲載日
山口県 下関市	1		シーボルト台風(1828)		2022-09-29
山口県 宇部市	2		周防灘台風(1942)		2021-06-25 2021-08-06(追加)
山口県 山口市	7		洪水(1918)、大正14年9月1日の豪雨(1925)、周防灘台風(1942)		2019-09-01 2020-12-16(追加)
山口県 萩市	4		申歳の大水(1836)、洪水(1919、1966)		2022-03-29 2022-06-23(追加)
山口県 防府市	7		洪水(1918)、昭和26年7月豪雨(1951)、平成21年7月中国・九州北部豪雨(2009)		2021-07-16 2022-03-09(追加) 2023-06-29(追加)
山口県 岩国市	3		周防灘台風(1942)、枕崎台風(1945)、ルース台風(1951)		2022-07-28
山口県 山陽小野田市	1		周防灘台風(1942)		2021-07-16
山口県 周防大島町	2		安政南海地震(1854)、洪水(1886)		2022-08-26
山口県 阿武町	2		洪水(1821)、洪水(1894)		2022-08-26

関係する石碑



すおうおおしまちやうとのにゆうごう あんせいなんかいじしん つなみ とうたつ きねんひ
周防大島町外入郷には、安政南海地震の津波が到達したという記念碑があるよ。

【祠と安政南海地震津波到達碑】

とのにゆうごう
外入郷には、安政南海地震による「大津波が大歳神(田んぼの神様)の祠がある小山の下の畑までの近くまで来た」という言い伝えがある。

平成25年8月には、外入自治会及び有志により、この言い伝えを風化することなく次世代へ継承していくため、祠のある地に「安政南海地震津波到達碑」と「説明版」が設置された。



祠と安政南海地震津波到達碑



白木漁港(外入)
地理院タイルを加工して作成

トピックス — 周防大島町立城山小学校の取り組み —



すおうおおしまちやう つなみ すおうおおしまちやうりつ
周防大島町には、津波が来たという言い伝えが各地に残っていて、周防大島町立
じょうやましやうがっこう つなみでんしやう ぼうさいきやういく かつやう
城山小学校では、周防大島各地に伝わる津波伝承を防災教育に活用しているよ。

周防大島町には、津波襲来の言い伝えが各地に残っていることから、城山小学校では「津波伝承のお話を聞く会」を開催して周防大島各地に伝わる津波伝承を発見・継承している。また、地震津波への備えを広めるため「ぼうさいかぞえ唄」を発表している。

ぼうさいかぞえ唄

ひとつ ひとつよに つたえたい	ふたつ ふるさと ふるえるひ
さんてん いちいち おもいだせ	よつつ よこゆれ ながいとぎ
いつつつ いっとき みをかくせ	むつつ むかえ たかいとこ
な一みは よんばい さかのぼる	やつつ やめとこ ひきかえし
このつ このみも てんでんこ	と一どけ このこえ せとないかい
ひ一びけ このうた にしにほん	ようじんせえ ようじんせえ
はんじやうせえ はんじやうせえ	はんじやうせえ はんじやうせえ

【タコぎし】

棕野には、棕野本川を遡上した津波で運ばれた蛸が、石垣に張り付いていたという伝承が残っていることから、「タコぎし」と呼ばれる地名がある。



タコぎし



地理院タイルを加工して作成

され
佐連には、「1854年のことだと思うが、佐連を襲った大津波で、当時の佐連集落の6割がやられた」という言い伝えがある。

平野鎌田には、「大津波が押し寄せて家ごと流された」「鎌田の家で糸車を回していたら、糸車ごと津波に流された」という言い伝えがある。

おおつみ おつみ
大積又は小積には、「船が浜から離れた田に打ち上げられた」という言い伝えがあるんだ。また、小積には6~7mの津波の言い伝えがある。

船越には、「津波で牛が流された」「海岸の石垣が全て流された」という言い伝えがある。

下田には、「津波は、こんな高潮のようなものではない。だから、津波が来た時にはこの山に逃げ上がれ。」という言い伝えがある。